

World Vision



Closure report 2022

終了報告書

モンゴル国

ハイラアスト地域開発プログラム

MOG-181425 (2005年～2022年)

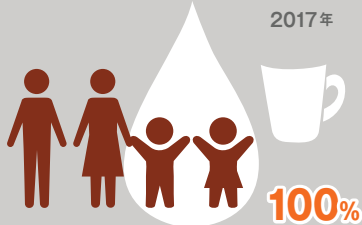


ありがとうございました

皆さまのご支援により、人々が変わり、地域が変わりました

安全な飲み水を
得られる人

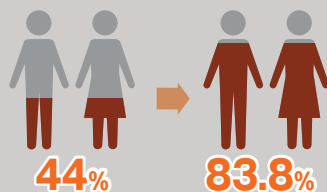
2017年



地域が子どもにとって
安全だと感じている保護者

2015年

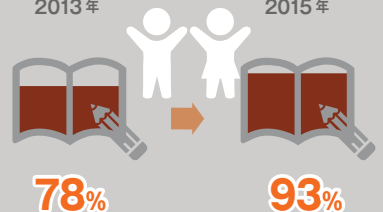
2021年



機能的識字力※のある
子ども

2013年

2015年



※物語を読んで、意味や内容を理解できる状態

Education



教育

教育の質を改善し、
学びの環境を整えること
ができました

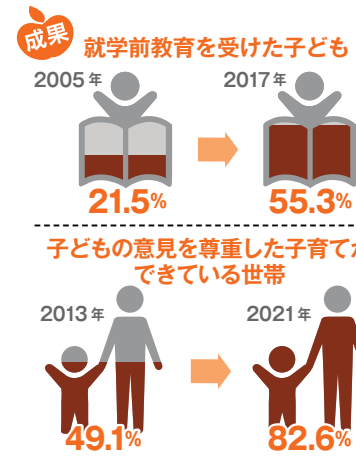
支援地域では人口の急増によって教育施設や設備が不足し、教員は行政の資金不足から必要な研修を受講できていない状況でした。また世帯の多くは貧困や失業などの問題を抱え、子どもの教育は重要視されていませんでした。これらの課題を改善するため、学校や幼稚園の設備改修や備品の支援を行ったほか、教員らを対象に指導法の研修などを実施し、教育の質の向上を目指しました。こうした取り組みによって、多くの子どもたちが、支援終了後もより良い環境で学習を続けられるようになっています。また学校以外でも学習や職業訓練の機会が得られるよう、子どもたちにライフ・スキル（日常生活で生じるさまざまな問題に対処するために必要な能力）教育を実施しました。



支援後
支援を受けて整備された学校で読書を楽しむ子どもたち



支援後
幼稚園に通っていない子どもを対象にした就学前教育の様子



Economic Development



経済開発

安定した収入を
得るための基盤づくりを
支援しました

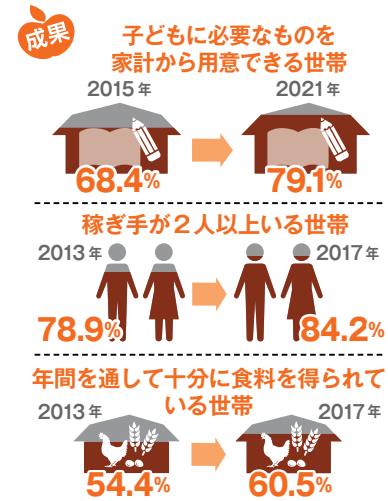
支援地域には地方から移住してきた世帯が多く、適切な転居手続きができていないなどの理由から、仕事に就けない人が少なくありませんでした。また、世帯の働き手の多くが十分な教育を受けておらず、生計を立てる方法や知識の不足が、家計を苦しめる要因の一つとなっていました。そこで基礎的なビジネススキルの研修、職業訓練と必要な用具の供給、事業計画作成のサポートなどの取り組みを通じて、安定した収入を得るための基盤づくりを支援しました。また、貯蓄習慣の定着を図り、今後の暮らしの備えを強化しました。2020～2021年には、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた世帯も多かったため、緊急支援を実施し、生計の立て直しを支えました。



支援後
貯蓄グループに参加した人々



支援後
仕事道具であるミシンの支援を受けた女性



Health



保健衛生

保健施設の整備と
啓発活動によって、
衛生環境が改善しました

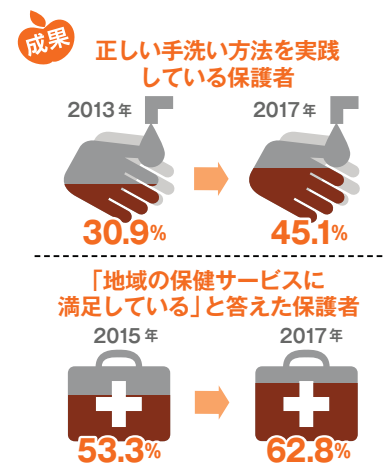
以前は保健施設の設備不足や、保健スタッフの意識の低さから、人々に健康に関する正しい知識が伝えられていませんでした。また、正しい手洗いははじめとする衛生習慣が地域住民に根付いておらず、ごみの不適切な処理なども多かったため、病気がまん延しやすい状況でした。そこで、学校のトイレや手洗い場などの衛生設備の改善、保健施設の整備をしたほか、衛生環境の改善に向けた啓発活動を実施したところ、関係者・利用者の双方が現状と課題を特定し、解決のための活動計画を策定・実行することができました。また、栄養改善プログラムや母子保健などについての啓発活動を継続的に実施したことが、保健衛生に関する地域住民の行動変容へとつながっています。



支援前
古く、衛生的でないトイレ



支援後
新たに建設されたトイレ



Child Protection



子どもの保護

子どもたちが安全に暮らせる
地域に変化しています

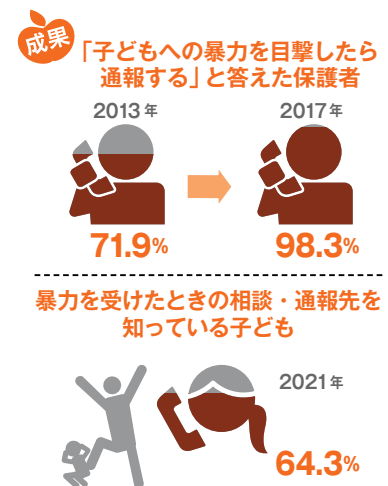
支援地域の住民の間では、子どもの保護に関する知識が浸透しておらず、家庭や教育現場では好ましくないしつけが行われていました。また貧困や失業率の高さといった地域の問題が、子どもたちを健やかに育むための環境作りの妨げとなっていました。一方子どもたち自身も、不適切な行為とは何か、暴力などの被害にあったときにどう対処すべきかを知らなかった。そこで保護者に対しては、暴力・体罰が子どもの成長に与える影響を周知する啓発活動を行い、子どもたちには、子どもの保護や権利について自ら考え、発信する様々な活動の場を設けました。さらに、子どもの権利や安全が侵害された場合に相談・通報する手段の確認や、子どもの保護にまつわる規則の策定にも取り組んだ結果、家庭と地域の両方が、子どもたちにとってより安全な場所へと変化しました。



支援後
子どもに対する暴力の撤廃のメッセージを掲げる子どもたち



支援後
各学校に配置された相談員。事業では密接に連携して活動しました



マネージャーよりごあいさつ



ハイアラスト地域
開発プログラム マネージャー
ガソツエツエグ・ウクナア

長きにわたってハイアラスト地域を支えていただき、深く感謝申し上げます。プログラム開始当初、この地域は貧困、子どもへの暴力、栄養不良など様々な問題を抱えていました。しかし皆さまの温かいご支援を通じて、人々は子どもの権利や保護、保健・衛生、ビジネススキルなど多くの知識を得て、今ではそれらを生活の中で生かすことができている。そして支援を受けた子どもたちは、健やかに成長するだけでなく、家族や友達、地域社会に良い影響を与える存在となっています。チャイルド・スポンサーシップという祝福を受けて、地域の子どもたちや人々の生活が明るく照らされたように、スポンサーの皆さまにも幸せが訪れますよう、お祈りしています。

地域代表者からのごあいさつ



地域住民代表
チヨローン・アリヤン
チャイムグ氏

以前は、子どもの保護や権利に関する意識の低さが課題の一つでしたが、今では子どもたちを守り育てることの大切さを多くの地域住民が理解し、そのための環境も整えられました。こうした変化は、子どもたちの自信や向上心、未来への希望へとつながっています。また、ワールド・ビジョンのさまざまな支援や研修などによって、多くの世帯の収入が増えたことで、人々の生活の質が向上し、困難があっても地域全体で乗り越えていけるようになりました。地域住民を代表して、これまで支えてくださった日本の皆さまに、心より感謝いたします。ありがとうございました。

皆さまとともに歩んだ 17 年間の支援と成果

準備期
2006 年度
▼
2007 年度

- ◎ 事業対象地域の状況やニーズ調査、プロジェクト実施計画の立案
- ◎ 地方自治体や地域住民との相互理解・関係構築
- ◎ 保健、経済、教育など、各分野の代表者で構成するワーキング・グループの設置



行政関係者や地域の人々に向けて意識向上を目的とした活動を実施



子どもたちも、地域開発について学習しました

第1期
2008 年度
▼
2012 年度

- ◎ 幼稚園や学校の改修、備品の提供など、快適な学習環境の整備
- ◎ 家庭菜園の支援
- ◎ 6,917 の最も脆弱な世帯に、食料品や衣料品など基本的な物資の提供
- ◎ 子どもたちがメディアに関する知識を習得するためのコンピューター室を、2つの学校に設置
- ◎ 地域住民と医療従事者を対象とした、健康や公衆衛生に関する研修
- ◎ 妊産婦と乳児の死亡率を減らすための研修と、クリニックへの支援
- ◎ 子どもの保護と権利に関する研修



模型を使って歯磨きの練習をする子どもたち



野菜の栽培に関する研修を受ける人々

第2期
2013 年度
▼
2017 年度

- ◎ 第1期からの継続：貧困世帯を支援する包括的な施策、学習環境の向上、子どもの保護に関する啓発活動
- ◎ 200 人を対象とした職業訓練の実施
- ◎ 5つの学校に、52の子どもクラブを設置
- ◎ 5歳未満児を対象とした栄養プログラムとリハビリテーション・プログラムの実施
- ◎ 飲用に適した安全な水を得るための井戸を設置
- ◎ 災害のリスクを周知し、備えるための研修



貧困世帯への援助の一環として、ミシンの提供を受けた家庭



絵画クラブに参加し、笑顔を見せる子どもたち

第3期
2018 年度
▼
2022 年度

- ◎ 第2期からの継続：所得の向上と雇用に必要なスキルを習得するための研修、収入の多様化と貯蓄習慣の推進
- ◎ 縫製、食品加工、大工などの小規模ビジネスの支援
- ◎ 子どもの権利や保護に関する啓発活動
- ◎ 子どもたちを対象としたライフ・スキル（問題解決や対人関係など、生きていく上で必要な知識・技術）やリーダーシップに関する研修
- ◎ 体罰が及ぼす悪影響の周知と、前向きな言葉を用いた子育ての実践に関する研修
- ◎ 地域住民の健康をモニタリングする、保健ボランティアスタッフの育成



小規模ビジネスの支援策として、タイヤを修理する機械の支援を受けた男性



子どもクラブでエンジニアリングを学ぶ男の子たち

支援を受けたチャイルドのストーリー

私を信頼してくれる人たちがいる——そう思えることで、困難の中でも希望を持てました | **アリウンズルさん (21歳)**

母親、妹と暮らすアリウンズルさんがチャイルド・スポンサーシップに参加したのは、6歳のときです。それまでは内気で自分の気持ちを表現するのが苦手でしたが、ワールド・ビジョンが運営する子どもクラブに入ると、友達が増えて、自己表現力もつき、自分に自信が持てるようになりました。

健やかに成長していたアリウンズルさんでしたが、一家は経済的な不安に直面します。アリウンズルさんが高校を卒業して大学に進学する頃、母親が失業してしまったのです。「幼い妹もいましたし、これからの生活を考えると、とても不安でした。でもさまざまなサポートと機会が与えられたおかげで、無事に大学を卒業し、今では会社員として働いて、母と妹の生活を支えることができています」

いつも私を信頼し、サポートしてくれる人たちがいる——そう思えることで、困難の中でも、きっと未来は明るいのだと希望を持ち続けることができました。親愛なるスポンサーの皆さま、私たちの人生に多くの素晴らしい機会を与えてくださって、本当にありがとうございます。そして地域を支え、子どもたちに安全な学習環境を提供してくださることに感謝します。これからは私もたくさんの人たちを支えていけるように、頑張ります。

